

日本経済論 [Japanese Economy]

[1] Introduction

篠 潤之介

junnosuke.shino@waseda.jp

このスライドの内容

- 授業の進め方・評価など
- このコースのアウトライン
- 日本経済の全体像を捉える 2 つのポイント
 - （1）3つの市場
 - （2）日本経済の「実力」と「調子」
- 参考文献

授業の進め方・評価など(1)

- スライド+Lecture Video を用いて講義を行う。
 - 講義のスライド+Lecture Video は、前日までにコースナビ上にアップする予定。
 - 2020 年度は、なるべく読むためのまとまった資料をアップします(オンラインのため)。
- データと数式をベースにした議論を重視する。
 - 実際にデータをDLして、グラフを書く方法をどこかで説明する予定。
- 日本経済に関する論文・レポートをできるだけ多く紹介していく予定。
 - The effects of Covid-19 on Japanese economy/financial markets に関する文献も紹介。
- 質問があるとき：~~①授業中挙手、②授業後教室、③メール、④オフィスアワー。~~
 - junnosuke.shino@waseda.jp まで。

授業の進め方・評価など(2)

■ 授業の目的は2つ:

[1]日本経済について、経済学のツールを適切に用いて理解を深める

-- 単なる知識の多寡は求めません(重要でない)。

[2]日本経済について、自力で問題設定と分析ができる能力を身につける

-- ①適切な問題設定 → ②データ[実証]やロジック[理論]を用いた分析
→ ③クリアでシンプルな結論。

■ 評価は[1]小テスト(Moodle)と[2]レポート、に基づく

-- ウェイトは未定(どちらも真面目にやってください)。別添の「レポートについて」も参照。

■ 出席について

講師について

[経 歴]

- ✓ 1997-2001 早稲田大学政治経済学部：船木由喜彦ゼミ（ゲーム理論）
- ✓ 2001-2003 東京工業大学社会理工学研究科：武藤滋夫研究室（ゲーム理論）
- ✓ 2003-2018 日本銀行（調査統計局→企画局）
- ✓ 2007-2009 米国ラトガース大学（Ph.D. in Economics）
- ✓ 2003-2018 日本銀行（金融市場局→調査統計局→金融機構局→金融市場局）
- ✓ 2016-2017 早稲田大学政治経済学部（非常勤講師）：日本経済論入門
- ✓ 2018-現在 早稲田大学国際教養学部（専任講師・准教授）

[連絡先]

- ✓ Email: junnosuke.shino@waseda.jp Homepage: <https://sites.google.com/site/junnosukeshino/>
- ✓ Office 11 号館 1444 号室 [オフィス来る場合は事前にアポをとること]

このコースのアウトライン

★ あくまで現時点での予定

第 1 回（0516）イントロダクション

第 2 回（0523）総論：GDP統計と景気変動のメカニズム

第 3 回（0530）総論：GDP統計と景気変動のメカニズム

第 4 回（0606）総論：経済指標の見方・使い方

第 5 回（0613）総論：経済指標の見方・使い方

第 6 回（0620）家計部門(1)消費

第 7 回（0627）家計部門(2)労働市場 [1]

第 8 回（0704）家計部門(3)労働市場 [2]

第 9 回（0711）海外部門：経常収支と輸出入の動向

第 10 回(0718) 企業部門：生産活動・企業収益・設備投資の動向

第 11 回(0725) 物価と金融政策(1)

第 12 回(0801) 物価と金融政策(2)

日本経済の全体像を捉えるポイント

- 経済学の視点から日本経済を深く理解するためには、「全体像を把握する」ことが必須。
- 全体像を把握するためには以下の2点を覚えておく。

★ どの国の経済にも「3つの市場」がある

★ 「実力」＝潜在的な成長力と「調子」＝景気を区別する

日本経済の全体像を捉えるポイント(1): 3つの市場

■ 3つの市場

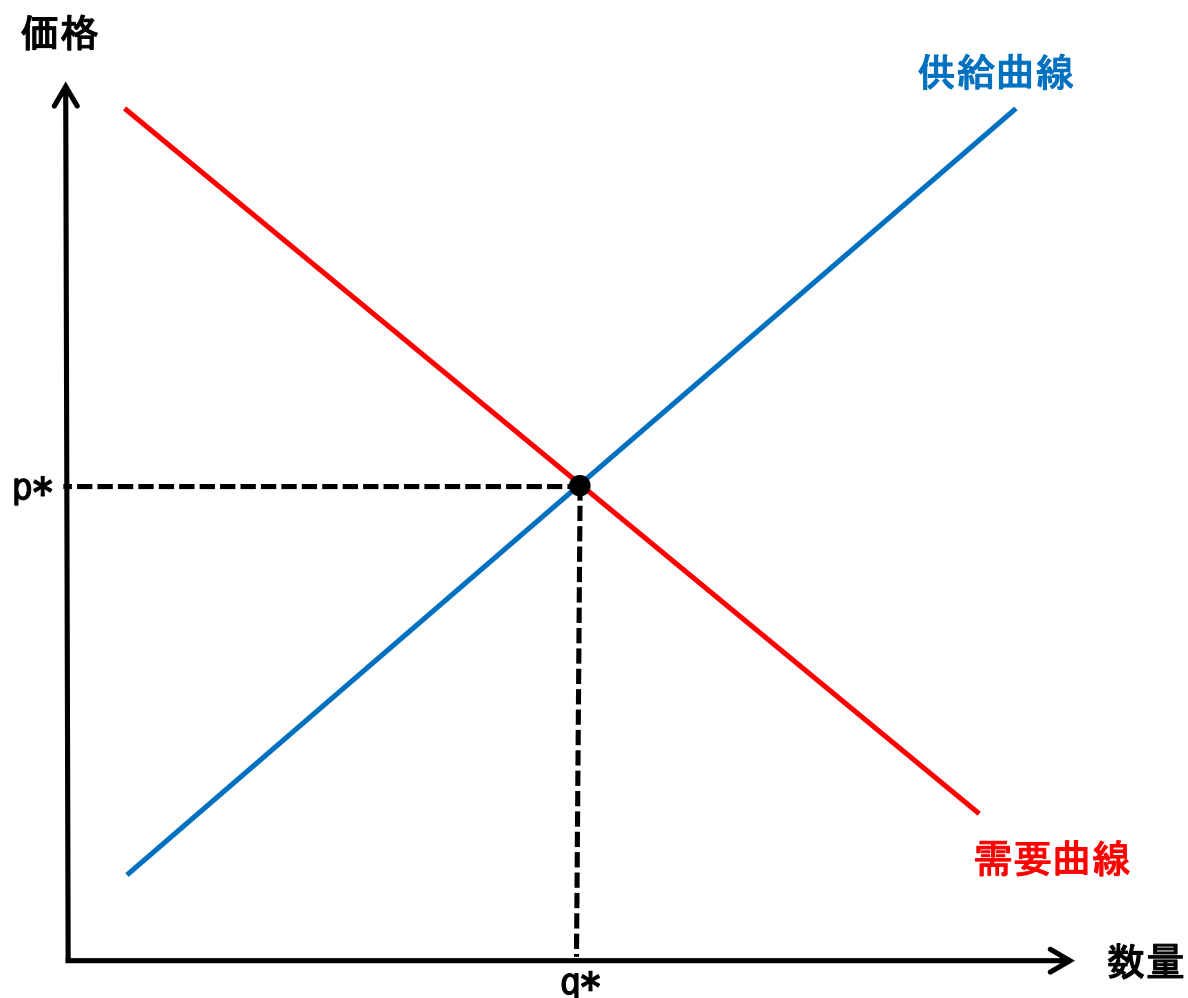
= ①財サービス市場、②労働市場、③金融市場

- ✓ それぞれの市場で＜需要[D]と供給[S]＞が存在。
- ✓ ＜需要[D]と供給[S]＞が＜価格[P]と量[Q]＞を決定する。
- ✓ これらの関係は＜循環要因＞と＜構造要因＞に規定される。

日本経済の全体像を捉えるポイント(1): 3つの市場

- 経済は3つの「市場」に大別される
 - モノのやり取りを行う: 財・サービス市場
 - ヒトのやり取りを行う: 労働市場
 - カネのやりとりを行う: 金融市場
- ニュースや新聞で経済記事を見るとときには、常に、「どこの市場起こっているのか」を意識する。
- それぞれの市場における「出し手」と「取り手」は？
 - 出し手＝供給側 取り手＝需要側
- それぞれの市場における「価格」は？

日本経済の全体像を捉えるポイント(1): 3つの市場



①財・サービス市場

②労働市場

③金融市場

■ 各市場における「出し手」と「取り手」は？

– 出し手＝供給側

– 取り手＝需要側

■ それぞれの市場における「価格」は？

日本経済の全体像を捉えるポイント(1):3つの市場

3つの「市場」:概念整理

	財サービス 市場	労働市場	金融市場
取引するもの	財・サービス	労働サービス	お金
主な供給者	企業	家計	家計
主な需要者	家計	企業・政府	企業・政府
主な仲介者	販売会社	人材会社	金融機関
価格	物価	賃金	金利

日本経済の全体像を捉えるポイント（1）：3つの市場

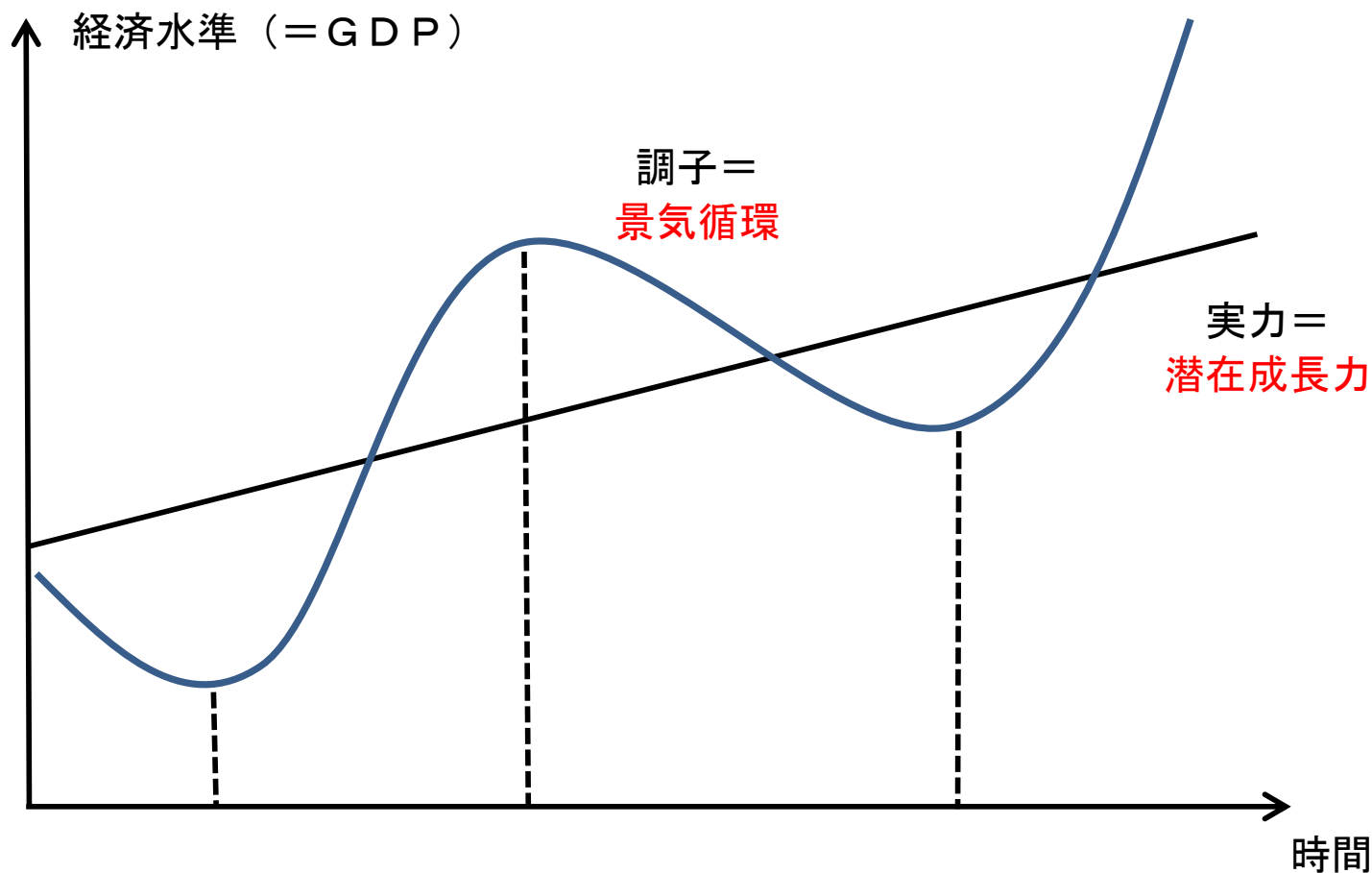
■ 3つの「市場」

- モノのやり取りを行う：財・サービス市場
- ヒトのやり取りを行う：労働市場
- カネのやりとりを行う：金融市場

■ 3つの市場は相互依存している（お互いがお互いに影響を与える）

- 金融政策の例（金融政策で「行う市場」と「目指す市場」）
- こうした相互依存まで踏まえた視点 = Deep Understanding!

日本経済の全体感を捉えるポイント（2）：「実力」と「調子」



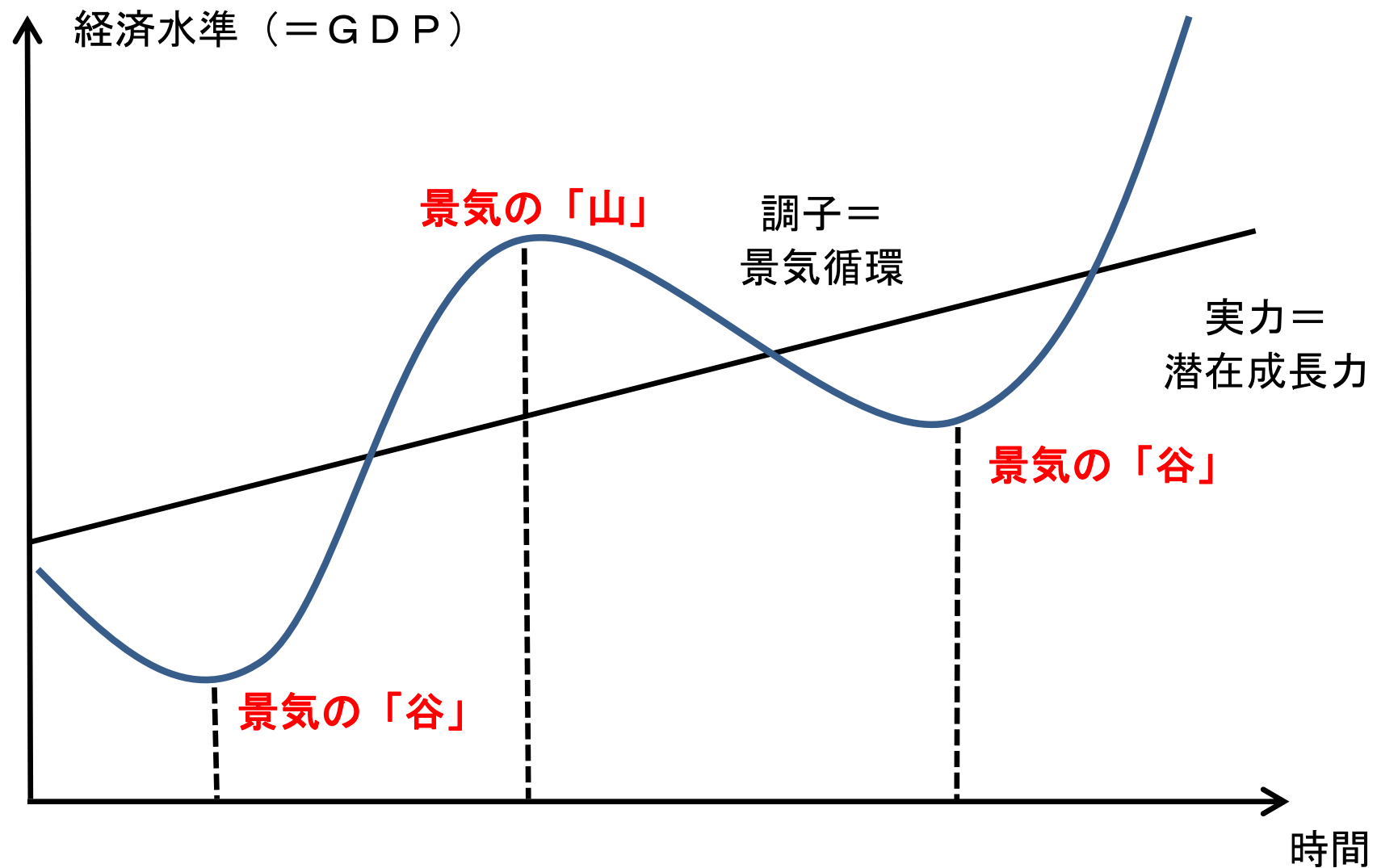
■ 左図のイメージは今後何
度も使います！

■ ある経済の

- ①現状を把握する
- ②政策効果をみる
- ③他国や過去と比較する

際には、「実力」と「調子」を
区別することが極めて重
要！

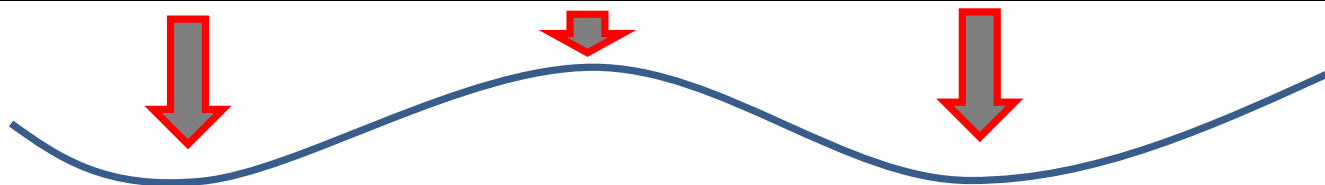
日本経済の全体感を捉えるポイント（2）：「実力」と「調子」



日本経済の全体感を捉えるポイント(2):「実力」と「調子」

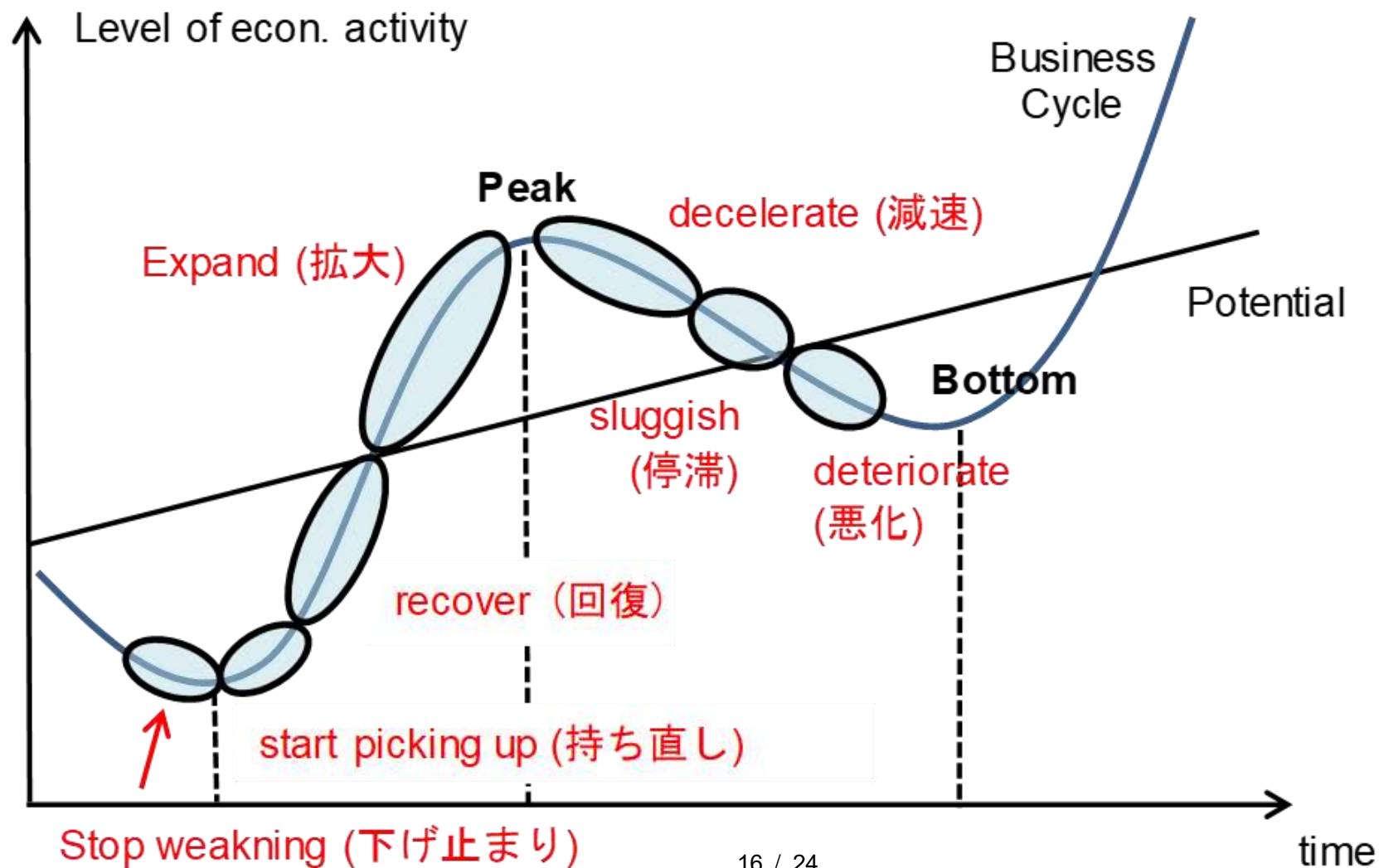
- 内閣府「景気基準日付」: 山と谷のタイミングが正式に決定される。

循環	谷	山	谷	期間		
				拡張	後退	全循環
第1循環		昭和26年6月 (1951年6月)	昭和26年10月 (1951年10月)		4ヵ月	
第2循環	昭和26年10月 (1951年10月)	昭和29年1月 (1954年1月)	昭和29年11月 (1954年11月)	27ヵ月	10ヵ月	37ヵ月
第3循環	昭和29年11月 (1954年11月)	昭和32年6月 (1957年6月)	昭和33年6月 (1958年6月)	31ヵ月	12ヵ月	43ヵ月
...
第11循環	昭和61年11月 (1986年11月)	平成3年2月 (1991年2月)	平成5年10月 (1993年10月)	51ヵ月	32ヵ月	83ヵ月
第12循環	平成5年10月 (1993年10月)	平成9年5月 (1997年5月)	平成11年1月 (1999年1月)	43ヵ月	20ヵ月	63ヵ月
第13循環	平成11年1月 (1999年1月)	平成12年11月 (2000年11月)	平成14年1月 (2002年1月)	22ヵ月	14ヵ月	36ヵ月
第14循環	平成14年1月 (2002年1月)	平成20年2月 (2008年2月)	平成21年3月 (2009年3月)	73ヵ月	13ヵ月	86ヵ月
第15循環	平成21年3月 (2009年3月)	平成24年3月 (2012年3月)	平成24年11月 (2012年11月)	36ヵ月	8ヵ月	44ヵ月

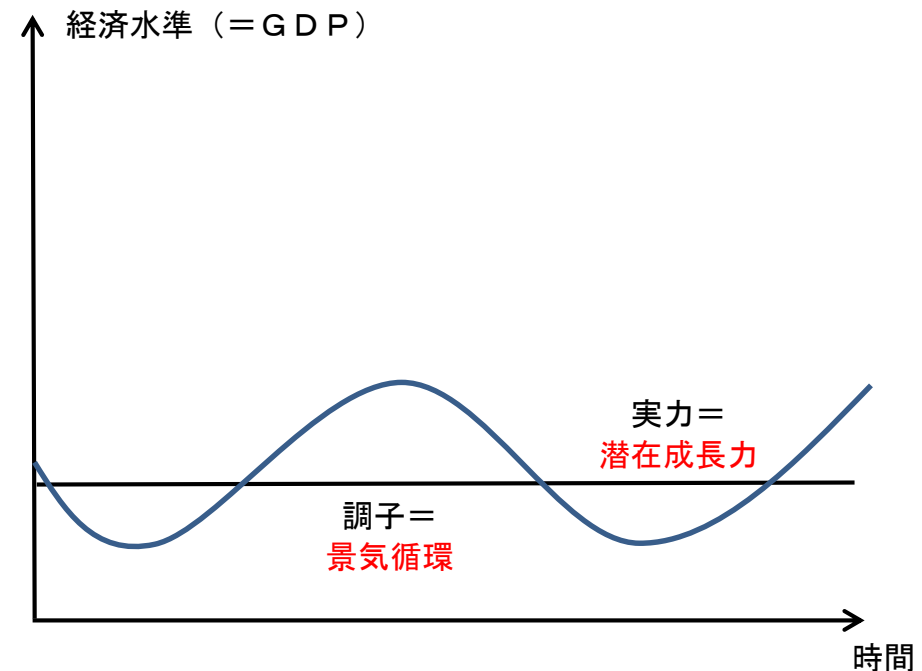
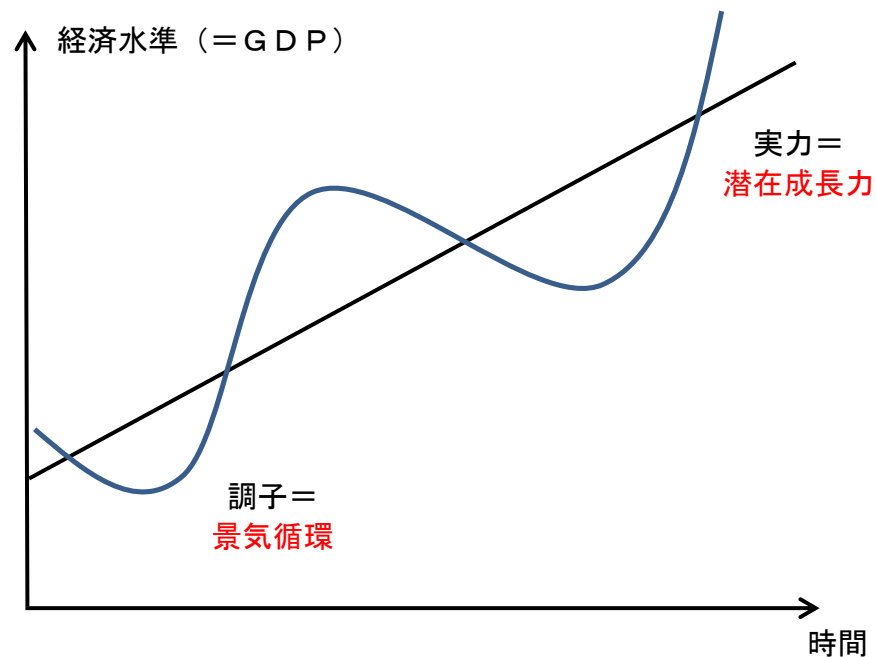


日本経済の全体感を捉えるポイント(2):「実力」と「調子」

- 景気の局面にはそれぞれ呼び方がある。

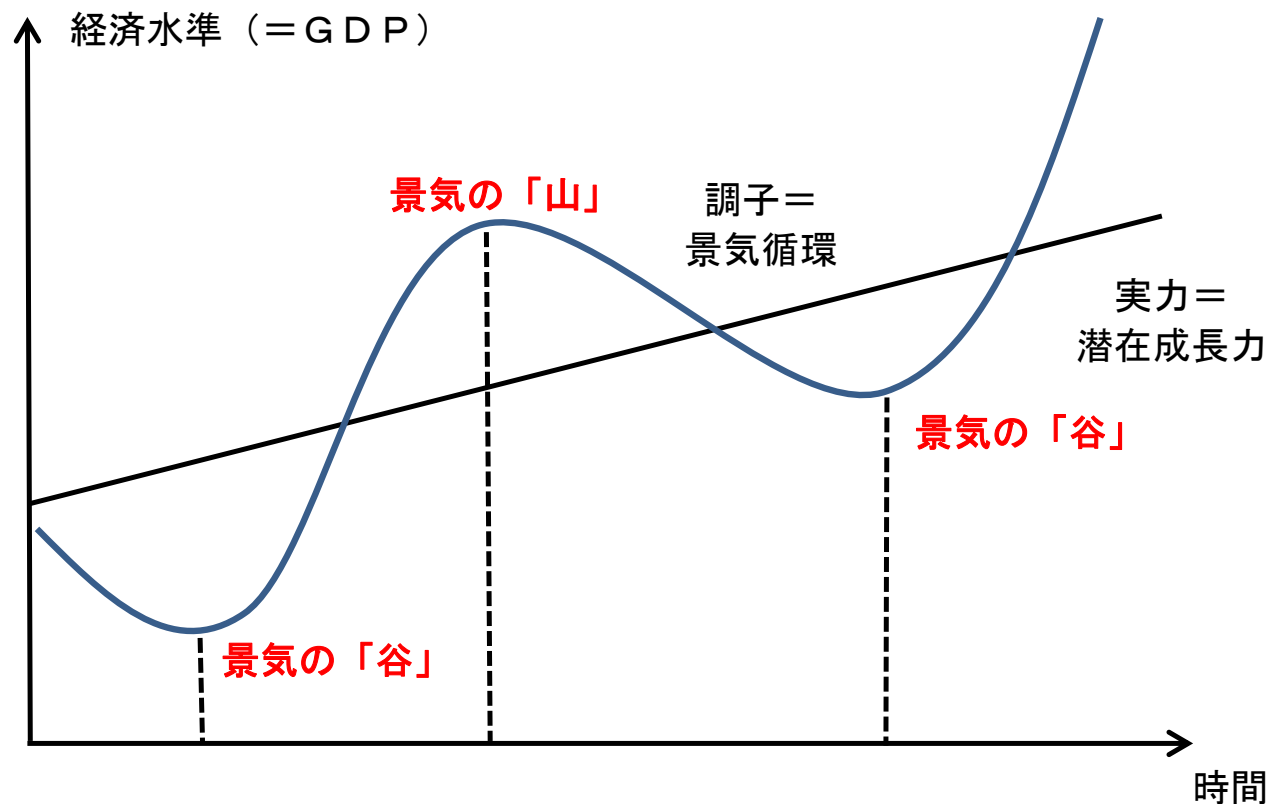


日本経済の全体感を捉えるポイント(2):「実力」と「調子」



- どんな選手(=各国の経済)にも、好調と不調がある。
- 同じ「2%成長」でも、実力次第でインプリケーションは全く異なる。

日本経済の全体感を捉えるポイント（2）：「実力」と「調子」



- 「わが国の潜在成長率を、一定の手法で推計すると、・・・0%台半ば～後半」
（日本銀行「展望レポート」20 年 4 月）← 実際に見てみましょう(p9 の図表 5)。

参考文献

- 大学では、「自分のテーマ・興味に適った文献(本・論文・レポート)を自分でみつけて、自分で読んで、自分で理解を深める」ことが重要。
- 本講義も、各々が、経済学的な興味を深め、自力で文献を探し、読み進めていく(そして「アウトプット」に繋げる)実力をつけることが大きな目的。
- 本講義ではそうした契機となりうる参考文献を適宜紹介していく予定。
 - どうやって探すか(経済学に基づいたもの/著者の探し方)
 - どうやって読むか(読む目的/文系と理系の読み方の違い/時間を確保する)

参考文献(1):教科書(授業で頻繁に使用するもの)

★ 以下の2つの文献(どちらもダウンロードできます、なので無料)のうち、展望レポートは授業内で多く参照します。プリントアウトする必要はありませんがファイルは手もとにキープしておくこと。

■ 日本銀行「経済・物価情勢の展望(展望レポート)」

- ― <http://www.boj.or.jp/mopo/outlook/index.htm/>。
- ― 現状 2020/4 月が最新バージョン。1,4,7,10 月末に新しい展望レポートが公表される。

■ 内閣府「月例経済報告」

- ― <https://www5.cao.go.jp/keizai3/getsurei/getsurei-index.html>

梅田・宇都宮「経済統計の活用と論点」 p55より

「まず、参照すべきは、内閣府の『月例経済報告』と日本銀行の『~~金融経済月報~~』(←2015 年をもって終了)『展望レポート』がそれぞれ判断根拠としている基礎統計である。いずれの報告も、定石に則って、GDPの需要コンポーネントの説明と、それら需要動向を受けた生産、雇用といった実体経済の分析、さらに物価、金融の分析から成り立っており、・・・」

参考文献(2): 日本経済に関する論文・レポート

- ★ 以下に掲載されている論文・レポートのいくつかは授業で参照する予定(その都度指示します)。ブックマークしておくとい。
- 日本銀行「日銀レビュー」 http://www.boj.or.jp/research/wps_rev/rev_all/index.htm/
 - ー 一般向け(といってもレベルが高いものも多い)に経済・金融面で最近のトピックを解説。幅広いテーマを扱っているのでタイトルを眺めて自分の興味にあたりをつけてみるのによい。
- 日本銀行「講演・記者会見」 <http://www.boj.or.jp/announcements/press/index.htm/>
 - ー 一般向け。日本銀行政策委員は講演を通じて自分の考えを披露する。たまに具体的なテーマで分かりやすく話しているので、気になるタイトルがあればチェックして読んでみるとよい。
- 内閣府「今週の指標」 <https://www5.cao.go.jp/keizai3/shihyo/index.html>
 - ー 最近公表された指標や注目度の高いトピックについての簡潔な分析が掲載されている。
- 内閣府「経済財政白書」 <https://www5.cao.go.jp/keizai3/keizaiwp/index.html>
 - ー 書店等でも販売しているが、項目ごとにPDFファイルがダウンロードできる。1年に1回なので大部・分析も多い。

参考文献(4):このコースに補完的なテキスト+ α

- 【マクロ】 齋藤誠・岩本康志・太田總一・柴田章久「マクロ経済学」有斐閣
 - ー 扱われているトピックが多く、この授業と重なる部分も多い。手元において参照できる。
- 【マクロ・経済統計】 梅田雅信・宇都宮浄人「経済統計の活用と論点【第3版】」東洋経済新報社
- 【ミクロ】 奥野正寛「ミクロ経済学」東京大学出版会
 - ー 必要十分な内容がコンパクトに書かれている。自分で紙と鉛筆で読み進めたい。
- 【経済数学】 尾山大輔、安田洋祐(編)「経済学で出る数学」日本評論社
 - ー 独学におすすめ。SILS の1年生ゼミで使っています。
- 【実証】 田中隆一「計量経済学の第一歩」
 - ー 前提知識ゼロで読めるとはいえ、比較的あたらしいトピックも扱っている。

参考文献(3): 日本経済に関連する読み物など(1)

■ 吉川洋「高度経済成長 日本を変えた 6000 日」中公文庫

- ― 難しいテクニックは使っていないのに、データの使い方や論理が説得的で大変参考になる。文章も素晴らしい。わずか 800 円。

■ 吉川洋「デフレーション」日本経済新聞出版社

- ― 4章のクルーグマン論文の解説など、学部1～2年生にはやや難しい内容もあるが、1～3章などは十分読める。

■ 翁邦雄「日本銀行」ちくま新書

- ― 著者は元日本銀行金融研究所所長（現京都大学教授）。読みやすいが書かれてある内容のレベルは高い。

■ 田島一郎「解析入門」岩波全書（←ロジカルに考えるために）

- ― 「厳密な論理展開とは何か」を ε - δ 論法を通じて学ぶことができる。第1章だけでもとてもためなる。

Assignments #01

- このスライドの復習
- 展望レポートをダウンロード(Moodle or 日銀 HP から)して、巻末のBOX1-BOX3を読む。

See you next time!

The next slides & other materials will be uploaded **at around 05/23.**